

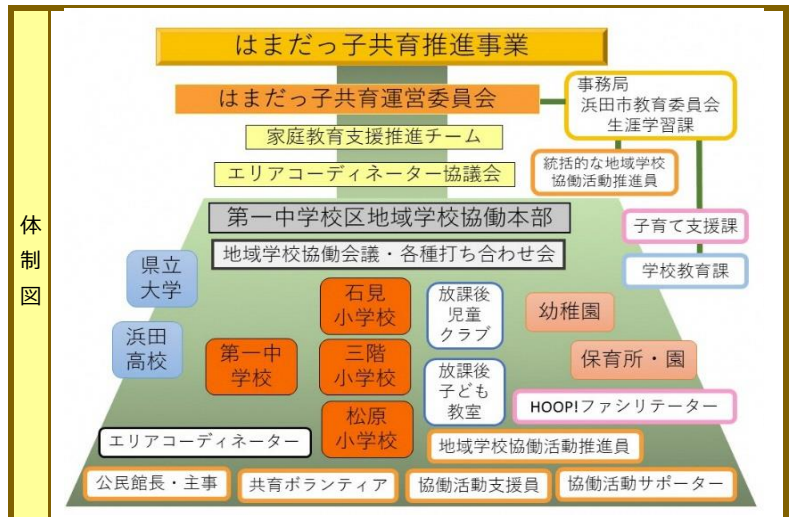
学びと活動が循環し、つながり広がっていく “はまだっ子共育” 第一中学校区地域学校協働活動

市町村名	名称	関係する学校名
浜田市	第一中学校区地域学校協働本部	県立大学、県立浜田高校、第一中学校 石見小学校、三階小学校、松原小学校、石見幼稚園

中学校区の人口	12,700 人		中学校区の世帯数	6,345 世帯			
開始年度	平成 20 年度	関係 学校数	4 校	合計 学級数	51 学級	合計 児童・生徒数	1,119 人
活動内容	学校支援（地域学校協働本部）	放課後支援		外部人材を活用した教育支援	家庭教育支援		—

地域学校協働活動 推進員等配置人数	統括的な地域学校協働活動推進員	統括コーディネーター	地域学校協働活動推進員	地域コーディネーター	合計
(内訳)	1 人 社会教育委員	0 人	3 人 地域住民	1 人 公民館主事	5 人
ボランティア等数	登録人数(H30)			活動延べ人数(H30)	
	80 人			712 人	
学校区の協議会	名称	主な構成メンバー			人数
	第一中学校区 地域学校協働会議	小・中学校長、小・中学校地域連携担当教諭、公民館長、公民館主事、 地域学校協働活動推進員、統括的な地域学校協働活動推進員、市教委生涯学習課			18 人

連絡先	浜田市立石見公民館（担当：江木）
住所	〒 697 - 0024 浜田市黒川町 1 3 2 - 2
TEL	0855 - 22 - 1380
FAX	0855 - 22 - 1380
MAIL	iwami-k@ph-hamada.jp
参考URL	http://www.city.hamada.shimane.jp



これまでの経緯

浜田市の放課後子ども支援及び学校支援は、平成16年度からの「子ども居場所づくり事業」、19年度からの「はまだっ子活動支援事業」へと進み、20年度からは「学校支援地域本部事業」へと発展した。これを機に、浜田市内9の中学校区単位のネットワーク化が図られた際、第一中学校区の推進体制は先駆的に整備された。これが、28年度からの「はまだっ子共育プロジェクト」、令和元年度からの「はまだっ子共育推進事業」に引き継がれている。

目的

地域学校協働活動及び家庭教育支援活動の推進を通して、学校と地域社会が、目標やビジョンを共有し、協働しながら、子どもも大人も共に高まり合い、つながりのある魅力あふれる地域を創生する。

○活動の概要

(1) 特色ある仕組み・体制・機能

- ・第一中学校区には3つの小学校があるが、公民館は1つである。その石見公民館が、地域学校協働活動の拠点になっている。
- ・4小中学校それぞれに担当の地域学校協働活動推進員が市教委から委嘱され、公民館主事とともに定期的にワーキング会議を行っている。
- ・各校で、ふるさと教育等の学校支援はもとより、学校と地域が協働で取組む「地域学校協働プログラム」の開発を進めている。
- ・放課後支援及び家庭教育支援として、中学生も参画する「放課後あそび隊」の実践は各校で成果を上げている。
- ・はまだっ子共育の各活動において、高校生や大学生、地域住民を巻き込み、児童クラブ・幼稚園・保育所とも連携を図っている。
- ・活動に参加、参画する地域住民の輪を広げようと、地域デビュー応援講座やボランティアの集いを実施している。

(2) 活動を実施する中で明らかになった解決すべき課題

・当エリアは、人口密集地もあれば中山間地域もある、広域で人口も多い地域である。地域の特性によって課題は異なるが、はまだっ子共育推進事業のより一層の拡充を目指して、より多くの地域住民（高校生、大学生も含めて）がこの活動の趣旨を理解し、学びと活動の循環を実現することが共通の課題である。

(3) 課題を解決するためのポイント

①連絡調整協議の場の設定

公民館主事と地域学校協働活動推進員の会合はコーディネーター会議、これに学校関係者が加わってワーキング会議、さらに拡大したものがネットワーク会議である。現在、ネットワーク会議は地域学校協働会議と称している。ワーキング会議については、4校で連絡協議することに加えて、各校に向いての実状に応じた連絡調整協議も随時行っている。

②統括的な地域学校協働活動推進員及び市教委生涯学習課との連携

第一中学校区の強みは、活動を支援する人材の数的な優位性に加えて、浜田市教委が委嘱する統括的な地域学校協働活動推進員が、自身の活動エリアで市全体への波及を見越したモデル的な実践を推進しているところである。公民館、学校、関係機関・団体・組織等の連携・協働に資するところが非常に大きい。さらに、公民館が市教委生涯学習課と綿密に連携を図っているので、適時、的確な情報提供や指導助言を得ることができる体制となっている。

③学びと活動の循環を目指した公民館事業

地域住民による主体的な学びが、地域活動や地域学校協働活動及び家庭教育支援活動に発展して行くような仕掛けを公民館事業の中に意図的に組み入れる。

○活動を実施しての効果・成果

- ・乳児から、幼児、児童生徒、大学生まで、子どもの成長期に適應した事業展開が進む中で、これに関わる地域住民のつながりも広がるなど、「地域ぐるみで子どもを育み、子どもも大人も、そして地域も高まり合おう！」のはまだっ子共育の理念の実現に向けて、着実な歩みが見られる。
- ・このようなはまだっ子共育推進事業の成果は、地域における住民主体の「協働のまちづくり」への機運の高まりにもつながっている。各種の教育機関や施設が集中する第一中学校区、石見公民館エリアは、今、市内外に誇れる文教地区としての新たな地域創生が進もうとしている。

○今後の方向性

- ・エリアの広さや多様な関係機関、団体の良さを活かすためにも、ネットワーク機能を確立し維持していかなければならない。
- ・地域学校協働活動については、各小中学校単位での取組課題を整理しながら、学校を核とした地域協働体制への移行を検討していく必要がある。
- ・高校、大学のある地域として、その利点を大いに活かした地域学校協働活動へと発展していく。

○活動の様子



石見っ子まつり（中・高校生の活躍）



本を読んで元気になる講座（地域デビュー）